

光が丘地区の公共施設再編に向けたオープンハウスの開催等について

光が丘地区の公共施設再編に向けて、今後、閉校することになる青葉小学校の学校跡施設の利活用にかかる構想につなげていくため、令和3年度に市民対話ワークショップの取組を実施したところです。

この取組について、広く地域住民の方に知っていただくとともに、学校跡施設の利活用に関する意見やアイデアなどを募集するため、近隣施設の一角においてパネル等を用いたオープンハウス型説明会（以下「オープンハウス」という。）の開催や、WEBアンケートを実施しますのでお知らせします。

1 オープンハウス開催日程

実施日	時間	場所
令和4年4月 9日（土）	午前10時 ～午後4時	ユーコープ ミアクチャーナ 並木あおば店 エントランス付近
〃 4月10日（日）		光が丘公民館 エントランス付近

※荒天の場合、中止又は日程を変更する場合があります。

2 WEBアンケートの実施

相模原市ホームページにおいて、パネルの内容を掲載し、アンケートによる意見を募集します。

(1) 実施期間

4月9日（土）から4月15日（金）までの間

(2) アンケートサイト

相模原市HP > トップページ > 中央区 > 光が丘地区の公共施設再編に向けた取り組み



問い合わせ先

担当 アセットマネジメント推進課

電話 042-769-8257

光が丘地区の公共施設再編に向けた オープンハウスについて

令和4年4月9日発行

光が丘地区の特性と公共施設の状況

光が丘地区の特性

- 光が丘地区は、本市が内陸工業都市として発展を始めた昭和40年代から急速に市街化が進み、住宅中心の街並みが形成されてきました。
- また、村富相武台線沿いでは、沿道サービス型の土地利用が進んでいます。
- 人口の増加とともに、住民相互の交流も進み、地域団体が協働して活発な活動が展開されており、「ふるさとまつり」などのイベントも盛大に開催されています。

人口減少・少子高齢化

- 光が丘地区の人口は、今後一貫して減少する見込みです。



出典：2015年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計（平成30年3月）

- 年少人口は、今後一貫して減少するなど少子化が進行しています。
- 高齢化率は、既に31%を超えており、2043年には40%となる見込みです。

公共施設の状況



光が丘・陽光台・並木・青葉小学校

小・中学校の児童生徒数の減少に伴う学習環境のあり方の検討を行い、市教育委員会において、令和7年4月を目途に、青葉小学校を閉校し、光が丘小学校、陽光台小学校、並木小学校に再編するという対応方針が定められたところです。

閉校後の
学校跡施設の
有効活用



療育センター陽光園、陽光台保育園など

子どもに関する公共施設の多くが築40年以上を経過しており、建て替えなどを検討する時期を迎えています。

学校再編の取組状況を踏まえながら、将来を見据えた検討を始めていきます

【取組の方向性】

今後、閉校することになる青葉小学校の学校跡施設は、

「避難所としても使える、子どもや地域の活動の場」

を基本とした利活用を検討していきます。

一体的な活用

【市の方針】

「療育センター陽光園」「陽光台保育園」で利活用します。

【地域とともに考えていくこと】

地域課題や周辺公共施設の状況を踏まえ、「地域にとって必要なサービス・機能」での利活用を検討します。

ワークショップの実施

今回のワークショップは、地域団体や関連団体からの推薦のほか、施設利用者、一般公募など、様々な立場や世代の方に参加してもらいました。

参加者の構成（18）
光が丘地区まちづくり会議委員（4）
小学校PTA連絡協議会（4）
光が丘公民館運営協議会（2）
子ども会育成連絡協議会（1）
青葉小学校避難所運営協議会（1）
学習環境のあり方検討協議会（1）
療育センター陽光園保護者（1）
公募市民（4）



ファシリテーター 東京都立大学都市環境学部 建築学科 助教 讃岐 亮氏
テーブルファシリテーター 東京都立大学 大学院生 相模原市職員（施設所管課等）
運営事務局 相模原市 経営監理課 こども・若者政策課

東京都立大学のご協力をいただきながら、運営しました。

ワークショップのスケジュール・内容

今後の学校跡施設の利活用の構想につながる、再編コンセプト、具体的な活用方策、アイデアなどを検討していただきました。

全4回を開催し、参加者をA～Cの3グループに分け、グループワークを行いました。

開催日	実施内容
第1回 （11月27日）	学校での思い出や、地域の魅力・課題の共有 学校での思い出や地域活動を共有して、地域の魅力や課題を考えよう！
第2回 （12月19日）	跡地活用のイメージ 施設を見て、既存ストックを使ってやりたいことなどを考えよう！
第3回 （1月15日）	再編コンセプトや跡地活用の具体化 やりたいことなどをカタチにして、再編コンセプトを考えよう！
第4回 （3月21日）	再編案のまとめ 実現に向けて、自分事としてアイデアなどを考えて再編案をまとめよう！



ワークショップの成果

施設名・コンセプト



光が丘ランドマーク

地域の主要拠点 ~子供から大人までが集まれる場所に~



目指す未来像

- ・地域の皆さんが笑顔になれる場所、憩いの場
 - ・久しぶりに会う人と会話ができる場
 - ・多世代交流の場「スクランブルスペース」
- 「光が丘スクエア」「青葉くすの木ホーム」



市民対話ワークショップ成果

Aグループ



空間利用のアイデア

- ・地域の中心として公民館と一体化利用
- ・ふれあいゾーン(誰でも自由に使える場所)
- ・共有スペース(災害時は避難場所に)

くすの木周辺を広場に
→ランチルームやテラスで食事をしたり、キッチンカーを入れる

体育館横や校舎内トイレ
→災害時に簡易トイレとしても使用出来るように洋式に変更する

防災倉庫の増設
→移動可能なコンテナ倉庫を用意し、防災用品の増量に備える

校庭の具体案①
→緊急時に防災公園となるように、かまどベンチの設置や地面の凹凸を解消する

くすの木のライトアップ等
→保育園園児の成長を感じながら、春夏秋冬に応じた飾り付けやイベントを行う

家庭科室
→通常は料理教室やカフェの調理場等に利用し、緊急時は避難所の炊事場となる

思い出の教室・学習支援教室
→卒業制作等を展示したり、学習支援ができる諸室を設置する

校庭
→防災面での利用に加え、公園のようにみんなが集まれるフリースペースに!

校庭の具体案②
→桜を残してお花見をしたりキャンプ場や運動場として利用したい

実現に向けたアイデア

自分たちができること

- * 手作り出来るものは自分達で作成する。例えばかまどベンチの材料には、相模原市の森林の間伐材や廃材を使用してコストを抑える。
- * 地域の皆が防災公園の掃除や見守りを行う。

お金をどうするか

- * 最初は行政(公的補助金)で賄う。→その後は、学校施設の再活用を大きく宣伝し、クラウドファンディングで資金を募集する。
- 民間企業の協賛金も検討する。

運営をどうするか

- * 事務所に受付窓口を設けて、駐在してもらい地域ボランティアを募る。
- * ふれあいゾーンは、事業者(パン屋など)に運営してもらう。(例)松ヶ丘園、OHANA BAKE
- * 学習支援教室は、社会福祉協議会や地域の中高生、大学生が運営する。
- * 陽光園と保育園の専用スペースをはっきりさせるために、壁の色を分ける。(共有か専用かが分かりやすいと一般の方も利用しやすい。)

施設名・コンセプト

Kusunoki



話し合いで意識したこと

- ・ONE TEAM 楽しく! つながる!
- ・自由度を持ってつながる

市民対話ワークショップ成果

Bグループ

空間利用のアイデア

- ・屋上に太陽光パネルの設置
- ・体育館とプールの一体化 ・校庭の多目的利用

体育館で運動・コンサート
→使用したい人のために貸し出し、可動するイスや防音ネットを設置して、コンサートやダンス等が出来るようにする。

校庭の避難所利用
→イベント用・災害時用電源盤を設置する災害時にも利用できるフリーWi-Fiを設置

誰でも利用できる子ども食堂・学習支援・地域活動・居場所
→B棟1Fにランチルーム

広い校庭の活用
→防音工事をしてコンサート会場に
→休日にはキッチンカー
→住民専用のゴルフの打ち出し場

プール
→体育館とプールを一体化し、1Fをプールに2Fを体育館に。プール撤去するなら地下に貯水槽を

公民館の土地を陽光園で利用 小学校の土地を公民館、地域への利用

実現に向けたアイデア

運営をどうするか

- * 学習支援ルームでは、近隣の大学生にリモート参加してもらうなど運営方法を工夫する。
- * 体育館とプールの一体化利用については、民間のダンススクールやスポーツジムに活用してもらう。

お金をどうするか

- * 校庭にキッチンカーを設けて、地域の飲食店がランチルームと連携したり、フリマなどの地域のイベントを開催して、賑わいを生む。→運営費や追加投資に充てる。

※参加者が欠席だったため、テーブルファシリテーターである大学生と市職員が、Bグループの思いを汲みながらワークしました。

